

平成 25 年度エゾシカテレメトリー調査 実施結果

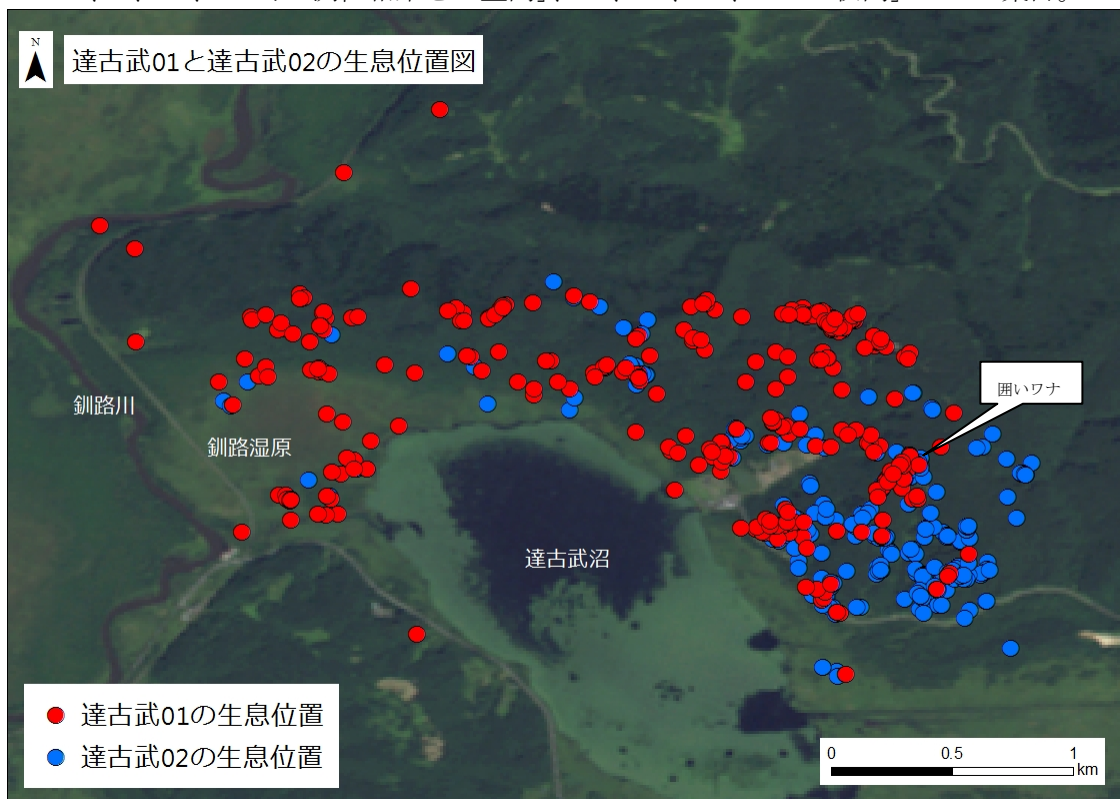
●GPS 首輪の装着

- ・ 罠いわなで 2/11 に捕獲した早成獣 2 頭に GPS 首輪とイヤタグを装着して放獣。
- ・ 首輪は Lotek 社 (カナダ) の Iridium TrackM2D を使用。
- ・ 測位間隔は 3 時間に 1 回とし、概ね 1 年間の追跡が可能。



●冬期の生息地利用状況

- ・ 2/11～3/26 までのデータを用いて、シカが昼間や夜間に利用している環境等を解析。
- ・ 6、9、12、15 時の測位結果を「昼間」、18、21、24、3 の「夜間」として集計。



○行動範囲

- ・ 達古武 01 はワナから約 4km 離れた場所や、達古武沼の対岸まで移動。
- ・ 達古武 02 は、ワナから約 3.2km 程度まで移動。

○生息位置と斜面方位

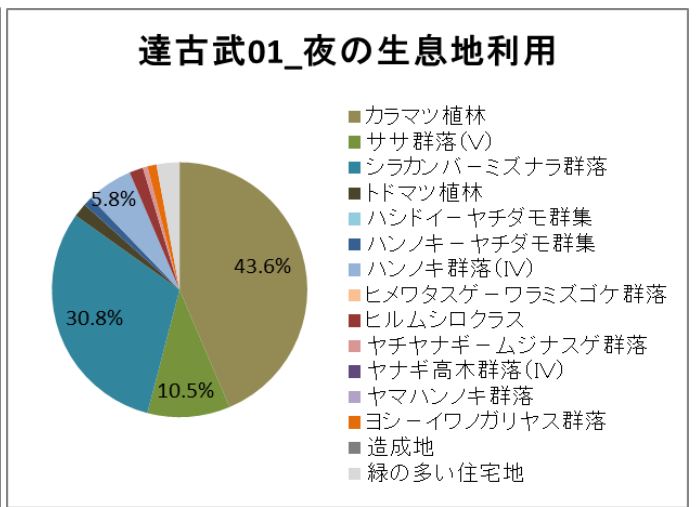
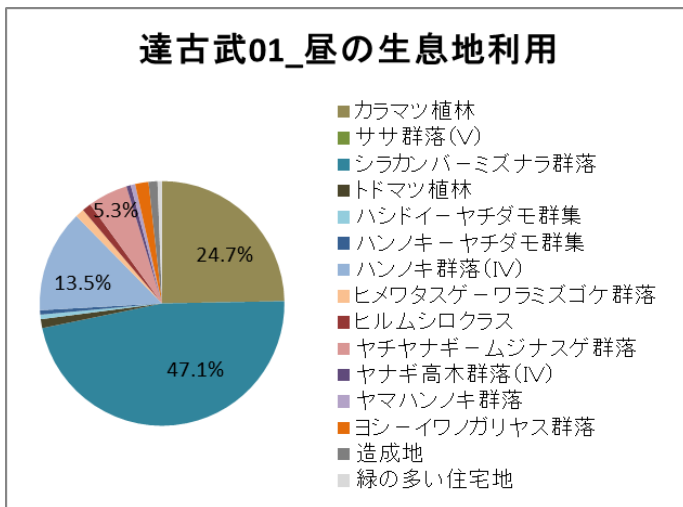
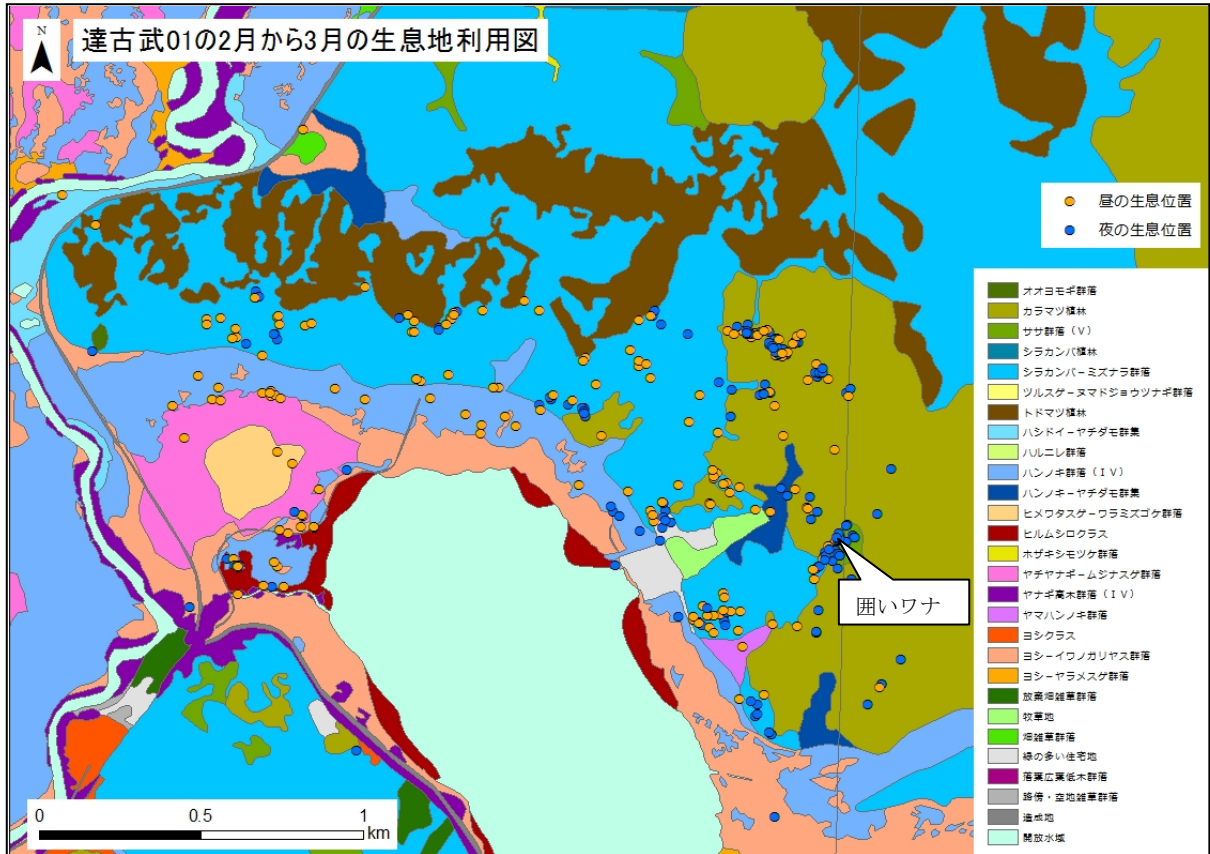
- ・ 2 頭とも南側斜面を多く利用していた。

斜面方位	利用割合	
	達古武01	達古武02
南	61.1%	61.1%
北	18.9%	10.2%
東	13.3%	25.0%
西	4.9%	3.3%
平地	1.8%	0.4%

○利用環境

達古武01の生息地利用

- ・昼はシラカンバ・ミズナラ群落を中心に、湿原内も利用していた。
- ・夜はカラマツ林を多く利用し、湿原内の利用頻度は昼に比べて低かった。
- ・夜は10%程度ササ群落を利用してはいたが、ここには囲いわなが設置され常に給餌されており、捕獲・放獣後も戻ってきていた。



達古武01の2月及び3月の生息地利用（昼夜別）

達古武 02 の生息地利用 (2 月及び 3 月)

- ・昼はカラマツ林 40.9%、シラカンバ・ミズナラ群落 47.0%で多くを占め、湿原内の利用頻度はわずかだった。
- ・夜はカラマツ 63.6%、ササ群落 20.0%で多くを占め、湿原内の利用頻度は昼よりもさらに低かった。

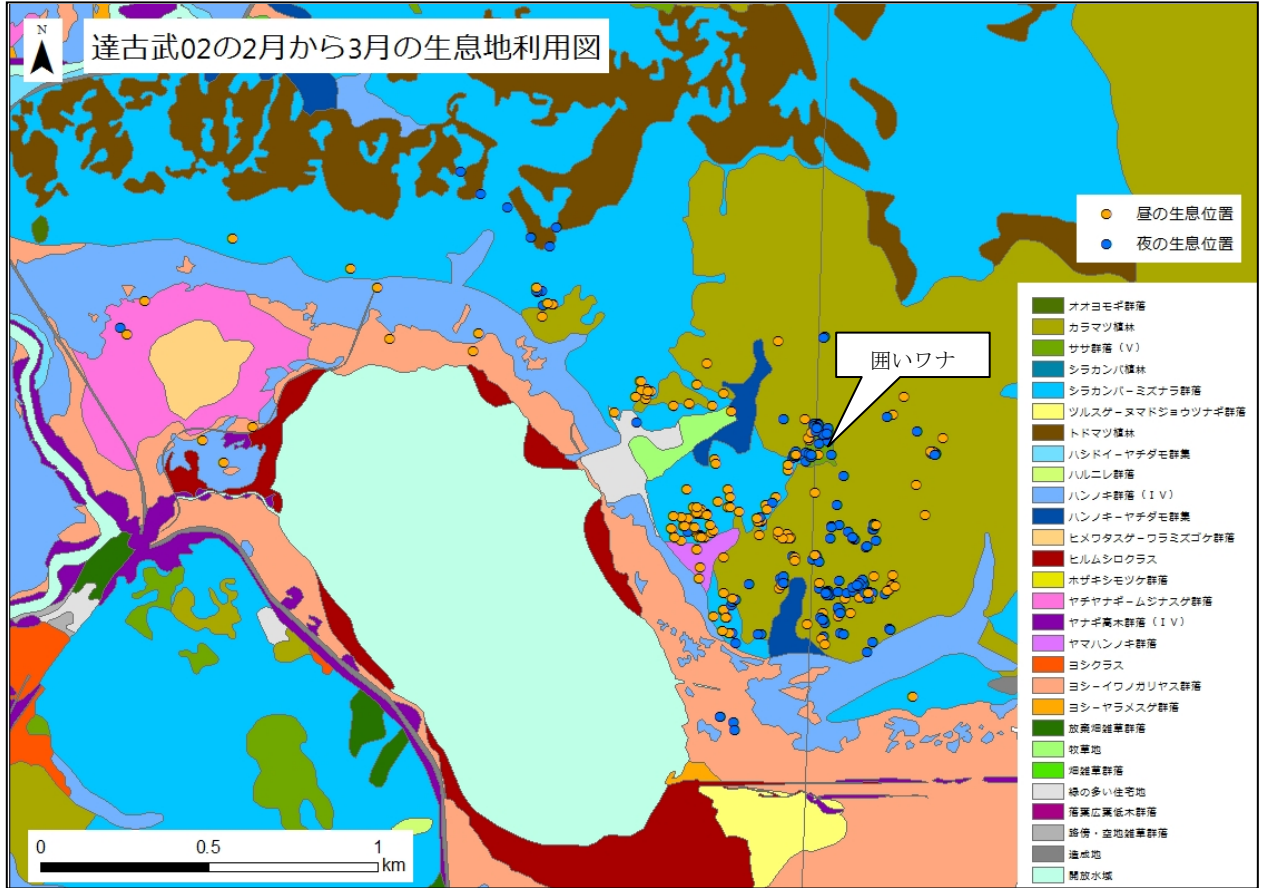
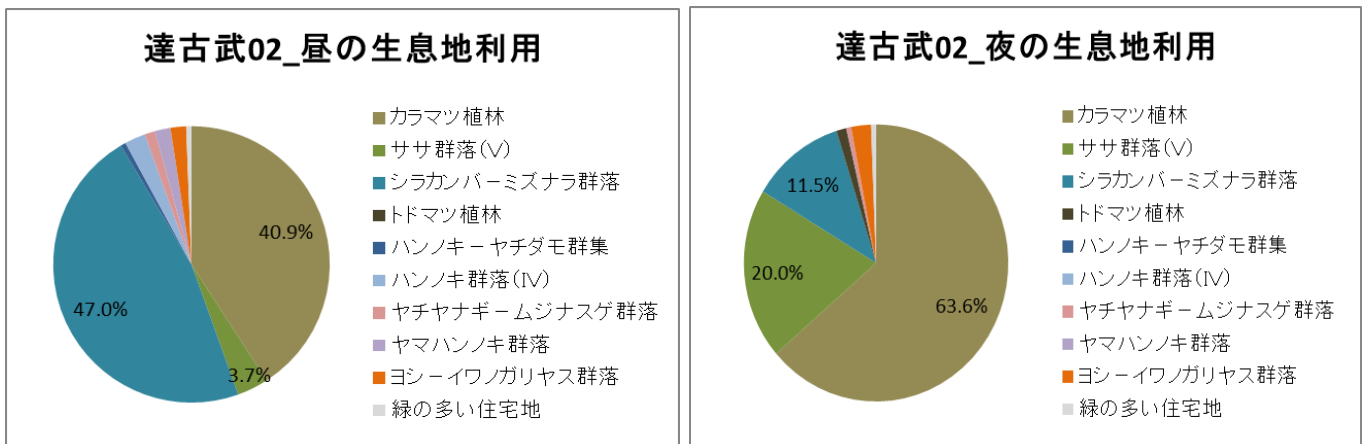


図 5-8 達古武 02 の 2 月から 3 月の昼と夜の生息地利用図



達古武 02 の昼夜別生息地利用の割合

● 4月以降の行動追跡結果

○達古武01の行動追跡

- ・ 4月以降も引き続き達古武湖周辺だけを利用している。
- ・ 過去1ヶ月は達古武キャンプ場付近にいたことが多かった。

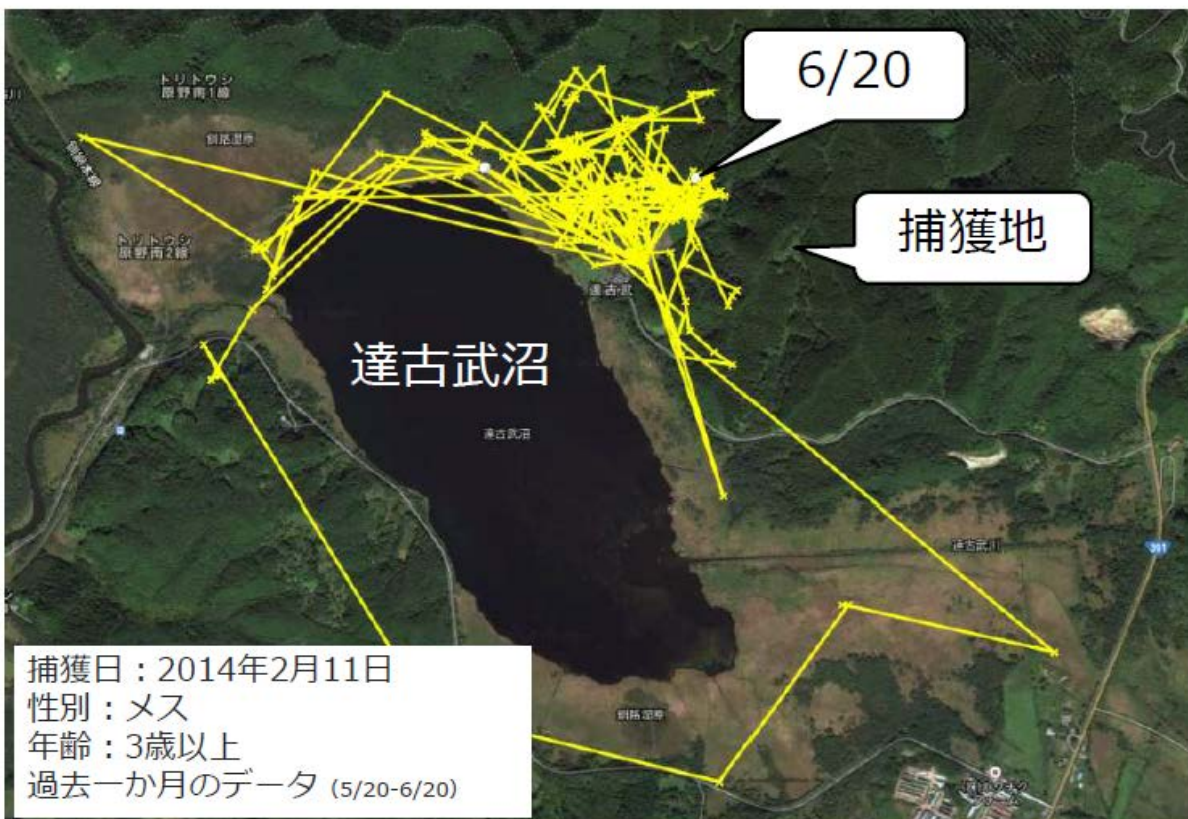
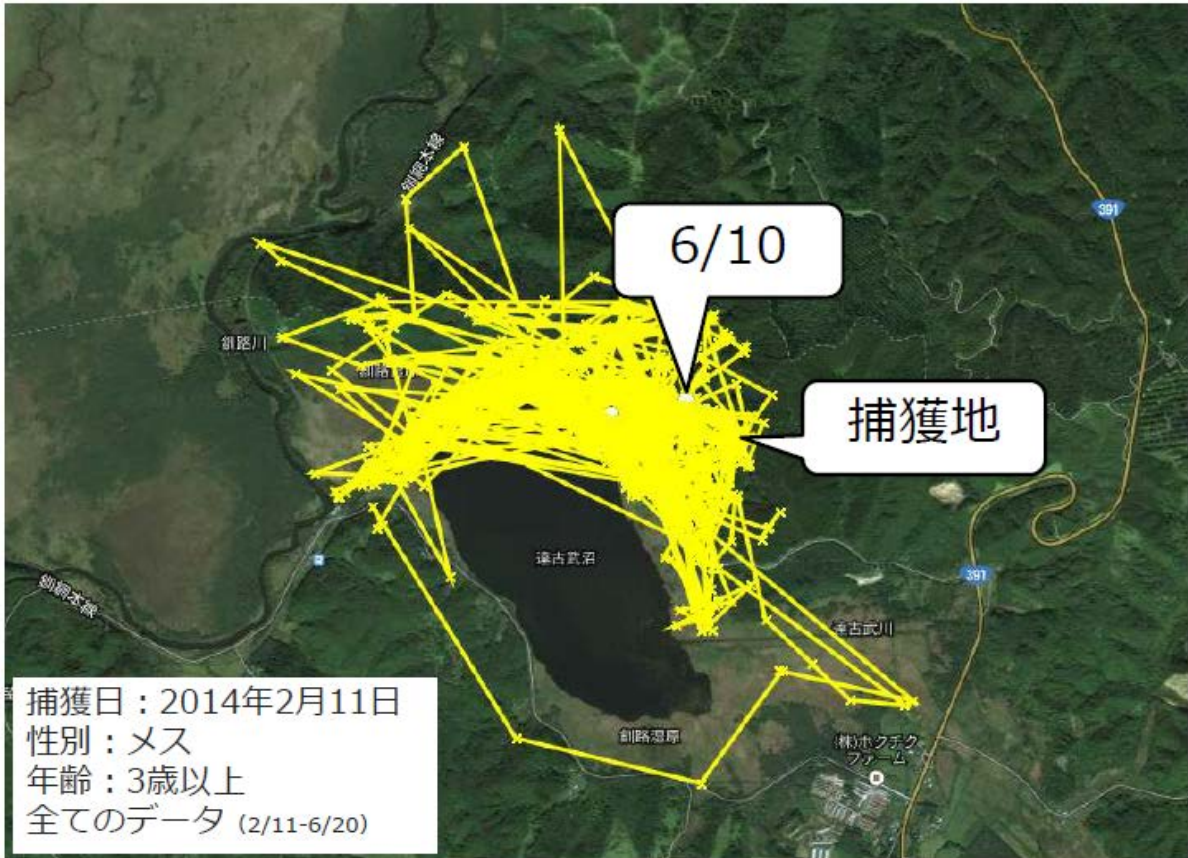
○達古武02の行動追跡

- ・ 4/13くらいに季節移動を開始し、およそ1ヶ月かけて標津町まで移動。
- ・ 直線距離にして約80kmをほぼ直線的に移動した。
- ・ 移動後は極めて狭い範囲で行動。主に河畔林にいる。

● 考察

- ・ 冬期はどちらの個体も達古武湖北岸を中心に3～4kmの範囲を利用していた。このことから、3km程度の範囲のシカを餌付け誘因して捕獲できる可能性が示唆された。
- ・ 囲いわなで一度捕獲された個体がある後もわな周辺を利用していた。知床では、標識個体をおとりとして利用して捕獲効率をあげているが、同様の手法が使える可能性が示された。
→「おとり」とは、何度も捕獲・放獣を経験している個体で、おとりが警戒心無くわなに入ることにより、周囲の個体がわなに入りやすくする。

●達古武01 の行動追跡



●達古武 02 の行動追跡

